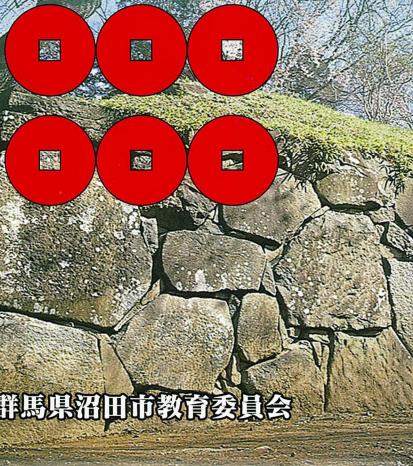


真田氏時代の沼田城下町

文化財散策ガイド



群馬県沼田市教育委員会

真田氏略系図(沼田関係)



真田氏沼田藩主一覧

代	藩主名	受領名等	在任期間	没年・享年	諡号	幕所
初	信幸(之)	伊豆守	~元和2(1616)	万治元(1658)・93	大鋒院	松代(大鋒寺)
2	信吉	河内守	~寛永11(1634)	寛永11(1634)・40	天桂院	沼田(天桂寺)
3	黒之助		~寛永15(1638)	寛永15(1638)・7	一陽院	新治(玄宥院)
4	信政	大内記	~明暦2(1656)	明暦4(1658)・62	円陽院	松代(長國寺)
5	信利(澄)	伊賀守	~天和元(1681)	貞享5(1688)・54	脊林院	沼田(清祥寺)

真田氏の系譜と上野進出

真田氏は東信濃の古族源野(しげの)氏の系譜を引いた一族である。種々に分家した源野氏の中で海野、福津、望月の三家が滋野三家と称せられ特に著名であった。海野氏の一族である真田氏は、小県郡真田郷(現沼田町)が発祥の地で、幸隆(幸綱)の代から真田氏として歴史上に登場するようになった。しかし、海野一族は、天文10年(1541)の海野平合戦に大敗し、幸隆は古くから滋野一族が居住して隣故があつた西上野へ逃れた。しかし、天文14年(1545)幸隆は、先に敵であった甲斐の武田晴信(信玄)に仕えてその武将となり武田氏の信濃攻略や上野攻略の先方衆として活躍するようになる。永禄6年(1563)から幸隆は上野経略で、かつて上野へ逃れた際に頼つた西吾野の羽尾氏の城、長野原城を攻め落とし、その後さきに東に進んで倉藤氏の岩棚城、高山城を攻略して、上野侵攻の拠点とした。また、西上野最大の要塞であった長野氏の真輪城も幸隆は落城させている。天正2年(1574)、信玄の後を追うように幸隆が没する。家督を継いだ昌幸が妻をから利根川を越え、沼田への攻略が始まるところとなる。

真田昌幸 従五位下安房守

真田幸隆(幸綱)の3男。海野平合戦で信濃を追われた父が武田信玄の武将となったことから、幼少のころ信玄の近習として仕えた。その後信玄の意向で武蔵家の家臣を従いて武蔵勝兵衛を名乗った。その後真田家の兄二人が「長篠の戦」で戦死したため、真田家の家督を継いだ。天正8年(1580)武田家の武将として昌幸は諭問により沼田城を手中に收める。天正10年(1582)に武田家滅亡は信濃から上野の一部を有する小大名として独立した。天正18年(1590)に昌幸と沼田を巡り争奪をした小田原の北条氏が豊臣秀吉に降伏すると、沼田は真田家に安堵され、沼田は嫡男信玄に与えられ昌幸は上田を領有した。

慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いでは、昌幸と2男信繁(幸村)は西軍(石田方)に信幸は東軍(徳川方)に属して戦つた。東軍が勝利して、昌幸は信玄とともに九度山に配流され、上田は信玄に与えられた。慶長16年(1611)九度山にて没。享年65歳。

初代沼田藩主 真田信幸 従五位下伊豆守

真田昌幸の嫡男。妻は徳川四天王の一人本多忠勝の娘で、天文14年(1586)家康の養女として信玄に嫁ぐ。天文18年(1590)豊臣秀吉の北条征伐の後、真田家に安堵された沼田は信玄に与えられ、2万7千石の初代藩主となつた。信玄は城の整備や拡充をすませ、慶長2年(1597)には九間十間で五重の天守が完成した。慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いでは、西軍(石田方)についた父昌幸と弟信繁と袂を別け東軍(徳川方)に屬した。東軍の勝利で父の上田領の他に加増3万石があり、併せて9万5千石を領有することとなる。戦後は昌幸と弟信繁の助命に尽力した。この頃に信玄の幸を之に改める。元和2年(1616)のころ沼田領は嫡男信吉に譲り上田に移るも、元和8年(1622)に松代へ10万石で転封となる。明暦2年(1656)松代藩主の家督を2男信政に譲る。元和年(1658)松代にて没。享年93歳。墓所は同所大鋒寺。



肖像写真所蔵: 真田宝物館

2代沼田藩主 真田信吉 従五位下河内守

真田信吉の嫡男。正妻は厩橋城主井雅樂忠世(後に大老)の娘。元和2年(1616)に父信幸から家督を譲られ2代藩主となる。殿舎上に位置する沼田城は、白沢用水だけでは水不足であったことから、新たに薄根川から川場用水を開闢して寛永5年(1628)に完成。新田開発も進めた。寛永11年(1634)には真田家と領内安泰を祈り城籠を铸造させたが、同年江戸にて疱瘡を病んで没した。享年40歳。沼田の迦葉山で荼毘に付され天柱寺に葬られた。

3代沼田藩主 真田熊之助

真田信吉の嫡男。寛永11年(1634)に父信吉の逝去にともない急遽僅か4歳で家督を繼承し、父の弟信政が後見となつた。しかし寛永15年(1638)に江戸にて病没した。享年7歳。後に新治巣村に慶寿山玄香院が熊之助を開基として建立された。位牌は同所徳巣寺にある。同年江戸にて疱瘡を病んで没した。享年40歳。沼田の迦葉山で荼毘に付され天柱寺に葬られた。

4代沼田藩主 真田信政 従五位下大内記

初代信吉の2男で2代信吉の弟。熊之助は去後約半年後に後見であった叔父の信政が寛永16年(1639)に43歳で家督を繼承した。信政は檢地を実施するとともに四か村用水等を開闢し、新田開拓に努めた。また、慶安2年(1649)の白沢高宿川や川場湯原・品生などの宿駅も行った。明暦2年(1656)、松代藩主の父信吉が91歳で幕府から隠居が認められ、沼田藩主の信政が松代の家督を継いだ。信政が沼田から松代への移る際に、沼田藩のほぼ半数の家臣を引き連れて行つた。しかし、松代在城僅か半年の万治元年(1658)に病没した。享年62歳。松代の長國寺に葬られた。

5代沼田藩主 真田信利(澄) 従五位下伊賀守

2代藩主真田信吉の2男。母は信吉側室の慶寿院。4代藩主の叔父信政が松代藩主となつたため、明暦3年(1657)に23歳で沼田藩の家督を継承した。ところが、叔父の松代藩主信政が僅か着任半年で急逝したことから、松代藩十万石の後継を巡って信政嫡子幸道(2歳)と、信利の間で争いが勃発した。この後継者争いは、隠居した初代信吉や幕府の上層部まで巻き込んだが幸道が松代藩の家督を継承した。こうした経験を経て信利は沼田城本丸の修復の他、侍屋敷や寺院移転を伴う町割など城下の整備や家臣の陣所の整理にも着手した。また、信利は寛文2年(1662)から石高制による領内統廻地を行つた。小物成(雜役)を整備して年貢収取のことと、信利は信政の後ろ盾であった幕府大老酒井忠次(信利の義理の従兄弟)が失脚した。その年の江戸御園橋が流失し、幕府が発注した橋梁構工事の用材提供を沼田藩が請け負ったが期限に間に合わず、それに付随して領内治政不行き届きを理由に天和元年(1661)に真田信利は改易となつた。改易後は山形藩奥平氏に預けられたが、その転封先の宇都宮で赦免されぬまま貞享5年(1688)に病没した。享年54歳。江戸駄駒吉祥寺に葬られた。沼田の迦葉山弥勒寺に供養塔がある。

編集・発行 沼田市教育委員会社会教育課文化財保護係

〒378-8501 群馬県沼田市西倉内町780 電話 0278-23-7565

真田氏時代沼田城出土資料

沼田城は一部発掘調査され、本丸を中心に真田氏時代の資料が出土した。

瓦は巴紋と均整唐草紋の軒瓦の他、鏡瓦・鬼瓦、金箔瓦も発見されている。陶器類としては、肥前古の伊万里や中国産磁器の他、天目碗などの瀬戸・美濃の陶器や泉州の焼塙壺も出土。



本丸出土瓦類



天守付近出土金箔瓦



本丸出土陶磁器類(焼塙壺・碗・皿)

① 榛名神社

三間社流造。祭神は榛名大神・宝高大神・薄根大神・諏訪大神で、他に境内末社が十一社ある。享禄2年(1529)に沼田顯泰が沼田(藏内)城を築城するにあたり、榛名大神は宝高大神とともに薄根大神(現在の榛名神社)の地に奉遷となつた。真田昌幸が榛名神社から信州真田に持ち帰つた鏡に白根鷦鷯名稚與、正応3年(1290)の鏡があり、本神社の起源はその時代まで遡る。真田氏時代以降の藩主も沼田一帯の総鎮守としてあがめ、多くの奉納・寄進がされた。本殿裏の手札3ヶ所に真田家の家紋六連鏡が付されている。



③ 月宮山天桂寺

曹洞宗。本尊は釈迦牟尼佛。本堂屋根の寺紋は六連鏡。明暦元年(1655~57)に5代沼田藩主・真田信利(澄)が、父で二代城主真田信吉の靈屋や墓を建てるために新治の瑠璃光寺を改め現在地に天桂寺を建てた。開山は永平寺二十七世萬照高國禪師英大和尚。



⑤ 法藏山正覚寺

浄土宗。本尊は阿弥陀如来。本堂屋根の寺紋は立葵。一説によれば天正2年(1574)榛名町(根岸村)から現在の觀音堂裏の地蔵堂に移り、法藏山正覚寺と改めた。慶長17年(1612)初代藩主・真田信泰が現在地に天桂寺の位置に移り転移した。信泰夫人の大蓮院が創建したと伝わる鏡舟著色地蔵十三院や天圓院の墓や靈屋がある。真田氏重臣で名胡桃城を奪われた鈴木主水が切腹した寺としても知られる。境内には沼田名譽民「久米民之助」の墓と墓地もある。沼田板東三十三番札所の二十五番。



⑦ 晴雲山三光院智德寺

天台宗。本尊は阿弥陀如来。沼田万鬼齋顯泰が天文元年(1532)年に幕岩城から新たに築いた沼田(藏内)城に移るに伴い、寺久保坂にあった熊野坊を現在地に移し三光院と改めたという。藩主・真田氏にに関する資料として、十一面觀音像・觀音堂灯籠・白馬がある。沼田横堂三十三番札所の二十一番。



⑨ 妙智山歓樂院法盛寺

真言宗御室派。寛文3年(1663)に5代沼田藩主・真田信利が、沼田城の鬼門除けとして藩主になる前に住んでいた月夜野小川にあった常楽院法盛寺を幕岩城跡に移し常楽院と称し、信利の祈願寺となつた。明治6年(1873)に沼田城内の不動院を合併し歓樂院と改称した。信利が造らせて本尊とした千手觀音菩薩坐像のほか、寛文(1661~1672)の年号が入った大絵馬がある。沼田板東三十三番札所の二十六番。



⑪ 廣寿山隆院炒妙寺

日蓮宗。本尊は阿弥陀如来。かつて井土上町にあり甚正坊と称したが常福寺となり、寛文12(1672)年、5代藩主・真田信利の帰依により、現在地に本堂伽藍を造営して現在の寺号に改めたという。



⑫ 開光山圓覺院了源寺

淨土宗真宗本派。本尊は阿弥陀如来。当初庵山圓覺院了源寺と称したが、のちに開光山圓覺院了源寺と改められた。開光山圓覺院了源寺は、元和2年(1616)に初代藩主・真田信泰の義理の父・了源寺の開基である。境内には圓覺院了源寺の本堂伽藍と、のちに開光山圓覺院了源寺の本堂伽藍とされる建物がある。



⑬ 善照山光清寺

淨土宗真宗本派。本尊は阿弥陀如来。天正11年(1583)に祐玄法師が信濃国に光清寺を創建した。その後真田氏に請われて沼田に移つたと伝えられている。境内には慶寿院の本堂伽藍がある。



沼田市史跡 沼田城跡

最初に城を築いたのは沼田氏12代元鬼頭泰(天文元年1532)年と伝わり、蔵倉内城と称した。その後戦国の乱期の中、武田氏の武将真田昌幸が入城、天正18年(1590)には昌幸嫡男の信幸が城主となり城の整備・拡張を行ひ慶長2年(1597)には五重の天守を建造した。天和元年(1681)に沼田の真田氏は5代で改易となり、翌年城は全て破却された。真田氏の後藩主となった本多氏はじめ黒田・土岐氏においても、三の丸跡に藩邸を建てるにとどまり、再び沼田城に天守や櫓が建造される事は無かった。

明治になり、その藩邸も取り壊された。現在、本丸・二の丸・三の丸の多くが沼田公園となっている。

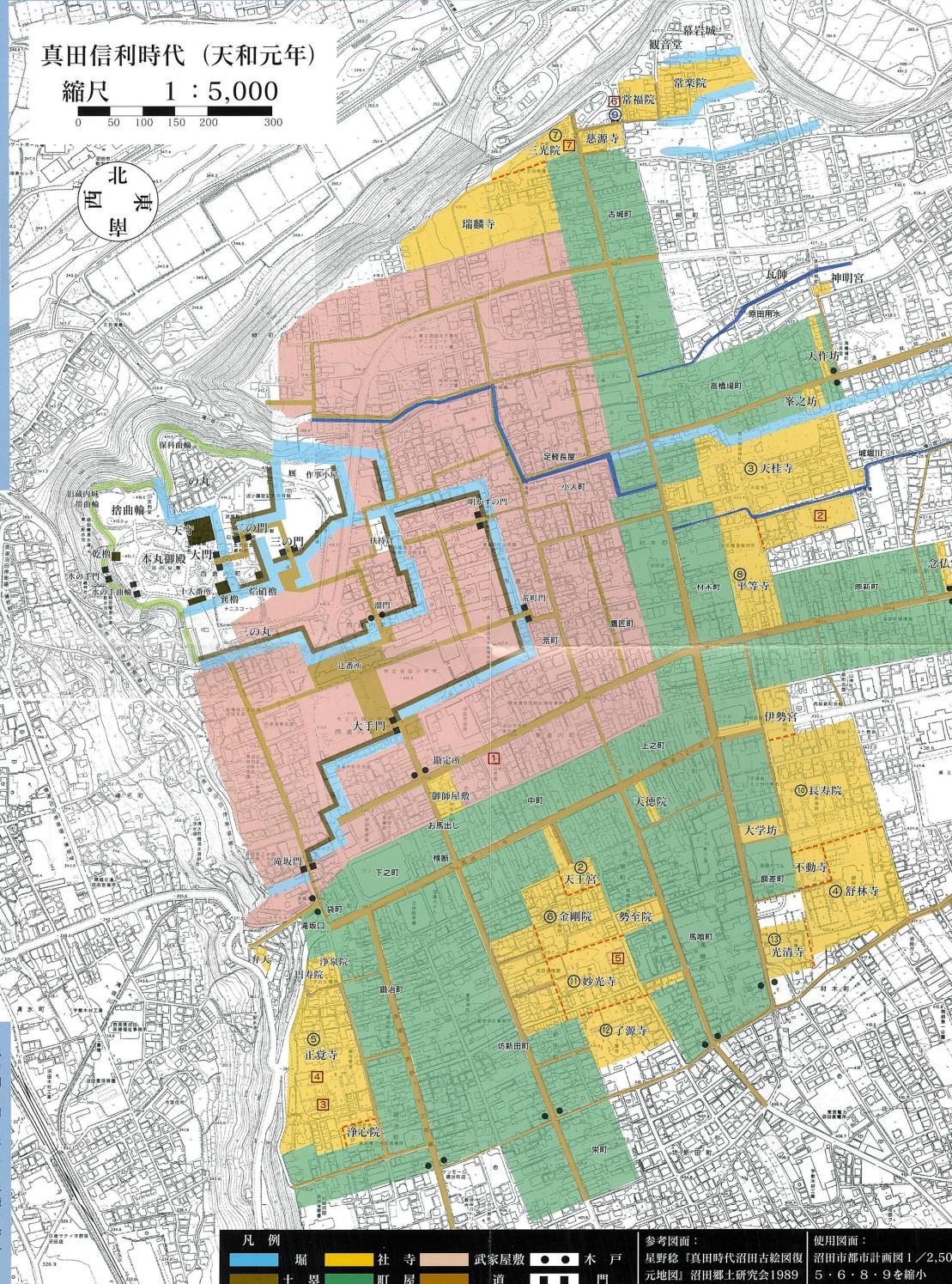


石垣発掘調査時の本丸西(乾)櫓台

同櫓台の石敷き発掘状況

真田信利時代(天和元年)

縮尺 1 : 5,000



②沼田市重要文化財 真田河内守信吉の墓

屋蓋に真田家の紋「六連鉄」と塔身と基礎上部に「天桂院殿前河州太守 月嶋淨瑞大居士墓 泽野朝臣真田信吉寛永十一甲戌歲十一月念八日」と刻み、沼田藩主の暮らしい威厳と風格がある宝篋印塔である。総丈297cm。

真田信吉は初代沼田藩主信幸の嫡子で、母は大蓮院。元和2年(1616)に父信幸が上田に移った後二代藩主を継いだが、寛永11年(1634)に江戸屋敷で病没した。40歳。遺骸は沼田へ送られ迦葉山で火葬、天桂寺に葬られた。



③沼田市重要文化財 大蓮院殿の墓

塔身・基礎とも莊重な形の宝篋印塔で総丈271cm。塔身の正面に梵字による阿弥陀如来、勢至菩薩、觀音菩薩の阿弥陀三尊が刻まれる。

大蓮院は徳川四天王の一人である本多忠勝の娘小松姫で、徳川家康の養女として真田信幸に正室として嫁いてきた。関ヶ原の戦いで西軍についた夫の父昌幸や弟の信繁(幸村)が沼田城に入るのを拒んだという逸話がある。元和6年(1620)に江戸から草津に療養に向かう途中武藏國鸿巣で没す。48歳。火葬・分骨にされて同の勝願寺、沼田の正覚寺、上田の芳泉寺に葬られた。



④群馬県重要文化財 紹本著色地蔵十王圖

地蔵菩薩を中軸にして、秦高王・初江王・宋皇帝・五智王・閻魔王・變成王・泰山王・平等王・都市王・五道典輪王の十王図を左右五幅に描いている。紹本極彩、寛正2年(1461)作。各幅同寸で縦97.4cm、横42.5cm。伝承によれば、真田初代沼田藩主信幸夫人大蓮院(徳川四天王の一人本多忠勝の娘で家康の養女)が正覚寺へ寄進したものである。祭事のみ一部公開。



⑤沼田市重要文化財 慶寿院殿の墓

総丈311cmと比較的高さがあり、相輪と屋蓋の間に鮮やかな刻の運華台を付けた華麗な形態の宝篋印塔である。正面には相輪から塔身にかけて妙法蓮華經、基礎部に慶寿院殿妙久・日榮大姫尊位、慶と刻まれている。慶寿院は2代藩主真田信吉の側室で、5代藩主真田信利の母。寛文7年(1667)に本隆寺を改築して慶寿山妙光院と寺名を改め、自ら開基となった。寛文9年(1669)没。



⑥沼田市重要文化財 千手觀世音菩薩坐像

像体・台座・厨子とともに漆箔の精巧で壯麗な像。頂上仏・脇仏などは、はぎ付けてあり、卵形光背に巧みな技法がみられる。像高76cm。寛文3年(1663)5代沼田藩主真田信利が、沼田城の鬼門除けとして月夜野の常安院法華寺を幕岩城跡に移し、この千手觀音を本尊としたことから「真田觀音」と呼ばれた。

祭事のみ公開。



⑦群馬県重要文化財 三光院十一面觀音像

桧材の寄木造りで六臂の立像。総高186.5cm。像内部の墨書銘によると文永7年(1270)に彫像による着手。彫刻師は快覚、発願者は僧慶賢。

伝承によれば延永13年(1406)年に沼田氏八代影朝が報復のため群馬郡分の村上出羽守を攻めた際に、この十一面觀音を持ち帰り池田の天照寺に、その後寺久保坂中段の熊野野に安置された。沼田氏が蔵内(沼田)城に移る際に、熊野野は三光院に名称が替わり場所も現在地に移された。

本院には、觀音堂前に5代沼田藩主真田信利(澄)が献納した金龍一対が、堂内の觀音像が安置されている。厨子の左右には、信利夫人が寄進したといわれる白馬像がある。祭事のみ公開。

